

青梅JC  
- 東京都 -

絶妙の距離感で現役を支援。  
「志と時」を同じくした者どうし  
未来に向けて活動しています

(社)青梅青年会議所は、東京の西端、青梅市を中心に一市一町を活動エリアとしております。青梅は平安時代より林産資源を核に発達し、江戸開府に伴い多摩川の水運活用や青梅街道の整備により石灰・木材・織物産業が活況を極め、現在では企業誘致や首都圏の物流拠点、観光資源の活用によるまちづくりが進められています。

青梅JCは、石灰・木材・織物産業が活況を極めた60年代後半、1967年12月9日に日本で370番目、東京で4番目に産声をあげ、本年で42年目を迎えます。現役メンバーの会員構成は、産業構造の変化に伴って設立当初の第1次、第2次産業中心から時代の変遷によってサービス業中心の会員構成にシフトしつつあります。

面から支えよう」との趣旨で、青梅JC設立5年後の1972年(昭和47年)に発足いたしました。会員は卒業生からなる特別会員282名の中から有志で結成され、現在は会員数158名、活動は「社交・親睦中心。金は出しても絶対に口は出さない。出せば出すだけJCの自由闊達な発想や活動を阻害するのと同様」という気概を忘れないように、絶妙な距離感を尊び活動しております。このことは、つい最近まで現役でいた私も感じるところであり、先輩諸兄の懐の深さを知るところでもあります。いささか語弊があるかもしれませんが、名称も敢えて「青梅JCシニアクラブ」ではなく「青梅JC O B会」という名称としたそうです。



今年1月、OB会より青梅JCに約束手形が手渡されました。



OB会の宿谷則夫会長とOB、現役メンバーの皆さん。



1967年に行なわれた青梅青年会議所認承認伝達式の様子。

青梅JC O B会の設立は、現役を数年で卒業せざるを得なかったチャーターメンバーが、日本JCにシニアクラブがあるのを知り、「我々も世話になった青梅JCにいくばくかの恩返しのため、青梅のまちづくりの一環として、現役の活動を資金

の設立は、現役を数年で卒業せざるを得なかったチャーターメンバーが、日本JCにシニアクラブがあるのを知り、「我々も世話になった青梅JCにいくばくかの恩返しのため、青梅のまちづくりの一環として、現役の活動を資金

活動は、年2回の総会と毎月1回の例会を行なう極々シンプルなものではありませんが、「志と時」を同じくした者どうしの意義ある未来志向の時間となっております。結びに、「現役あつてのOB会」、今後の現役の活躍を祈念しながら、現役メンバーの「気持ち」を陰ながら支えていく所存です。期待しております。思いっきりやってください。

日本JCシニアクラブ

東京ブロック担当幹事

望月武治